

▼ 目 的 ▼

少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの希薄化、産業・雇用環境などの社会環境が激変する中で、わたしたちの生活や価値観は急速に変化し、市民のニーズは多様化・高度化しています。

また、地域が抱える課題もさまざまであり、これらに対応するには、「地域力を高め、結集すること」が必要です。

より多くの地域住民が参画し、自ら地域の課題について考え、地域資源を生かした地域づくりに取り組む「地域協働のまちづくり」が、各地区の持続的な発展につながり、ひいては小浜市全体の活性化にもつながります。

▼ 協働のまちづくり ▼

「協働」とは、将来の夢に向かって、わたしたちの小浜をよくするため、市民・団体・事業者・行政が対等な立場で、互いに知恵や力を出し合い、責任を共有しながら、協力して活動することです。

まちづくりにおいて、この「協働」によって事業を行うことは、目的ではなく手段にすぎません。

市民・団体・行政・事業者が、地域の課題を解決するため、それぞれの特性を生かしながら一丸となって取り組むことで、共通の夢や目標を実現していくこと、これが「協働のまちづくり」です。

👍 協働のまちづくりを進めるために・・・

市では、11月29日に、県の「集落活性化支援事業」の助成を受け、協働のまちづくりの担い手育成のための研修会を開催しました。

まちづくり協議会のメンバーなど約80人が参加し、先進地の事例から、地域のさまざまな団体が協力して地域の課題解決に取り組む手法などについて学びました。

市では今後も、このような研修会を通して、担い手の育成に努めたいと考えています。



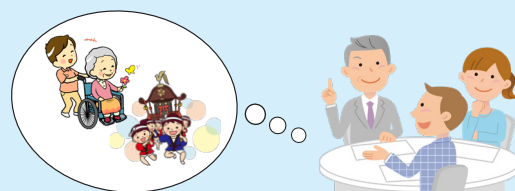
まちづくり研修会の様子

▼ これからのまちづくり ▼

本市では、これまでの地域活動を通じて培われた地区単位の地域コミュニティを基本に地域協働のまちづくりを進めていくことが、小浜市の特色を活かした取り組みにつながると考えています。

そのため、公民館を拠点とした地域協働のまちづくりを推進しています。

今後、まちづくり協議会が目指す姿を描いた「中・長期的な地区のビジョン」を各地区で策定し、そのビジョンに基づいた地域づくりを進めていきます。



地区が一丸となり、地域課題の解決に取り組む 地域協働のまちづくり

■問い合わせ 市民協働課 ☎ 64・6009



住民参加型のまちづくり

市では、第5次総合計画で「地域力を結集した協働のまちづくり」を掲げ、住民参加型の取り組みを進めています。

各地区では「まちづくり協議会」が組織され、多くの地域住民が参画し、地域の課題について考え、その解決に向けて取り組む、地域協働のまちづくりに取り組んでいます。

みんなの力で地域課題を解決

「各種団体間の連携が取れるようになった」、「住民の意識が変わってきた」との成果がある一方、メンバーの固定化やリーダーの育成といった課題も出てきています。

今後、地域協働のまちづくりに継続して取り組んでいくためには、地域住民のさらなる参画・協力がが必要です。

地域課題を解決するために地域一丸となり、住みよいまちづくりを進めましょう。

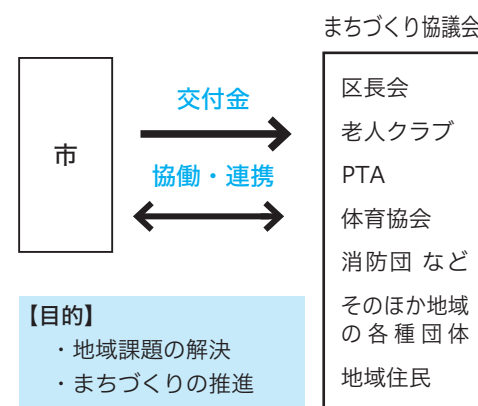
「まちづくり協議会」とは

「まちづくり協議会」とは、地域課題の解決や地域資源を生かした活動を行う地区単位の組織です。

区長会をはじめ、各種団体、地域住民らで組織され、公民館を拠点に地域づくり活動を行っています。

市から、地区の人口規模に応じた交付金が交付され、防災マップの作成や防災訓練などの「防災」に関する活動、花いっぱい運動や環境美化などの「環境整備」に関する活動、スポーツ教室やウォーキング大会などの「健康づくり」に関する活動など、地区の実情に即した事業に取り組んでいます。

※「協働のまちづくり」のイメージ図



～ 自分たちのまちは 自分たちでつくる！～

地域課題の解決に取り組む

まちづくり協議会の事例を紹介します

case.3 今富

交通安全

課題

通学路に狭い道路や歩道のない道路が多くて危険。子どもたちが安心して通学できるようにしたい。

取り組み

見通しが悪い交差点や、自動車が速度を出しがちな場所などを地図で示した「通学路ヒヤリハットマップ」を作成し、住民に配布。また、減速を促す電柱幕を通学路に設置するなど、地域住民に交通安全の注意喚起を実施。



通学路ヒヤリハットマップ

case.4 宮川

地域活性化

課題

増えつつある休耕田や耕作放棄地を有効活用することで、地区外からも人を呼び込んで地域を活性化したい。

取り組み

「花の里みやがわ」をテーマに、休耕田を活用した広大なひまわり畑が夏の風物詩に。小浜市を訪れる観光バスのルートに組み入れられるなど、市内外から多くの人々が訪れ、地域活性化に寄与している。



休耕田を活用したひまわり畑

case.1 中名田

地域防災

課題

山や川が近く、自然災害の脅威が身近にあるため、地域を守る体制づくりが必要だと感じている。

取り組み

市内で初めて、地区単位での自主防災組織を結成し、防災活動に取り組む。台風時に公民館を本部にした情報収集や安否確認、平時の原子力災害対策として広域避難訓練や避難マップ作成などを実施。



自主防災組織による災害対応

case.2 内外海・加斗

環境美化

課題

観光客や釣り客が多く、捨てられたゴミが景観や環境を悪くしているため、地域をきれいにしたい。

取り組み

従来のウォーキングイベントに、地区内の清掃活動を組み合わせた「クリーンアップウォーキング」を開催。既存イベントを利用したことで多数の参加者を確保し、健康増進と環境美化を同時に推進。



クリーンアップウォーキング(内外海)

公民館を「コミュニティセンター」に移行するため、検討を重ねています

コミュニティセンターとは

「コミュニティセンター」とは、従来の公民館の機能に加えて、まちづくり協議会と連携した地域づくり活動の機能を併せ持つ施設です。

なぜ移行が必要なの？

公民館は、「社会教育、生涯学習活動を通じて地域住民の学習活動あるいは文化活動に寄与するための施設」と法律（社会教育法）で定められています。

しかし、社会情勢の変化などに伴い、生涯学習の場としての機能に加えて、地域づくりやコミュニティ活動の拠点としての役割が重要視されています。

移行することで、協働のまちづくりを効果的に行うための拠点として位置づけ、今後、まちづくり協議会が地域課題の解決につながる活動に取り組むやすくなります。

移行のメリット

地域住民のニーズを反映したさまざまな事業で施設を利用できるようになり、活動の幅が大きく広がります。例えば、公民館では実施できない有料の催し（地域発展につながるイベントや介護予防等の事業、地産品の物販など）も、移行により可能になります。

コミュニティセンター検討委員会

平成30年8月に、学識経験者などを含む「コミュニティセンター検討委員会」を立ち上げ、現在、議論を重ねている段階です。

今後は、運営の方法や担う業務、職員の体制や待遇などについて、先進地の事例も参考にしながら、慎重に検討を行い、地区説明会などを開催し、市民の皆さんの理解を得てから移行したいと考えています。

Focus 本年度に結成された、2つの協議会会長に意気込みを聞きました

西津



西津まちづくり協議会 会長
宮川正行さん（71歳・板屋町）

交流を生み、顔の見える関係づくりを

西津地区では、各種団体が連携して、安全安心な地域づくりや住民の親睦を図る取り組みを行っています。

特に、シルバークフェやふるさと祭りなど、地域や世代を超えて参加できる事業に力を注ぎ、これまで接点のなかった住民に交流が生まれるなど、互いに顔の見える関係ができています。今後、地域活性化のため、さまざまな活動に取り組んでいきます。

意見を出し合い、やりがい持てる郷づくりを

国富の郷づくり協議会では、各種団体の代表や、女性や若手の皆さんを対象に意見交換会を実施し、コウノトリや農業に関する事業案や、女性参画や小学校跡地利用といった課題など、非常に多くの意見をいただきました。今後はいただいた意見を参考に、みんながやりがいを持って参加・参画できる郷づくりに取り組み、「住んでよし、訪れてよし」の国富をつくってまいります。



国富の郷づくり協議会 会長
森喜太郎さん（62歳・熊野）

国富